

1 産地基幹施設等支援タイプ
I 産地競争力の強化を目的とする取組用

(都道府県名: 令和3年度(西暦2021年度))

市町村名	事業実施主体名 (対象作物・畜種等名)①	メ ニュー ①	類別	事業実施後の状況①							成果目標の具体的な実績①	メ ニュー ②	類別	事業実施後の状況②							成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
				成果目標の具体的な内容①	計画時(平成29年(西暦2017年))	1年後(令和元年(西暦2019年))	2年後(令和2年(西暦2020年))	3年後(令和3年(西暦2021年))	目標値(令和3年(西暦2022年))	達成率				成果目標の具体的な内容②	計画時(平成29年(西暦2017年))	1年後(令和元年(西暦2019年))	2年後(令和2年(西暦2020年))	3年後(令和3年(西暦2021年))	目標値(令和3年(西暦2022年))	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他				
弘前市	相馬村農業協同組合	果樹(りんご)	104	上位規格品の割合を16.2ポイント増加	(4,655t/11,703t)	(4,456t/10,753t)	(5,697t/12,997t)	(4,431t/10,846t)	(7,056t/12,600t)	6.8%	上位規格品の割合が1.1ポイント増加した	果樹(りんご)	112	海外に向けた販路拡大に係る輸出量を5.1ポイント増加	(1,541t/11,703t)	(1,960t/10,753t)	(1,692t/12,997t)	(1,779t/10,846t)	(2,300t/12,600t)	62.7%	全出荷量に占める海外向けの割合が3.2ポイント増加した	農畜産物集出荷貯蔵施設 ・選果機(2条合流型3基)他 8,397t/年 ・ハイマストフォークリフト2台	975,198,960	451,481,000	0	0	523,717,960	令和元年8月22日	【上位規格品の割合】 オールフリートレー式選果機の導入により黄色品種において特に目立つ押し傷の発生が減少したが、凍霜害の影響によりサビ果や変形果が多発したため、1.1ポイント割合は増加しなかった。 防霜ファンや燃焼材の使用により凍霜害の影響の軽減を図ること、また、人工授粉やマメコバチの適正管理により結実数を確保し、適正摘果により品質のよい果実を残すこと等により、目標の早期達成を目指す。 【海外向けの割合】 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による輸出用コンテナ船の不足の影響を受け、輸出が伸び悩んだため、割合は3.2ポイント増加したものの、目標の達成には至らなかった。 前年より実数、割合とも増加していることから物流も徐々に回復傾向にあると思われるが、販売ルートの増加による輸出拡大策を講じながら早期の目標実現を目指す。	上位規格品の割合増加については、オールフリートレー式選果機の導入前よりも1.1ポイント増加したものの、凍霜害等により変形果・サビ果が増加したことで上位規格品の割合が昨年度に比べ2.9ポイント低下している。導入した集出荷貯蔵施設を適切に使用し、引き続き、押し傷の発生を減少することと併せて、高品質りんごの生産を推進するよう指導する。 また、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により全出荷量に占める海外向けの割合が目標値に比べ1.9ポイント減となったが、前年より3.4ポイント増加したことから物流も徐々に回復傾向にあると思われる。実施主体に対し、社会情勢に臨機応変に対応した輸出拡大策を講じるよう指導し、今後の安定的な取引を促す。	

都道府県平均達成率	34.8%	総合所見	評価対象となった1地区について、目標未達成となっている。高品質りんごの生産及び輸出拡大に向けた指導を徹底し、今後の安定的な取引を促していく。
-----------	-------	------	--

- (注) 1 別紙様式1号の1の(2)のIに準じて作成すること。
2 要綱第3の2の(2)のアの(ア)のただし書きの場合にあっては、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。
3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。
4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。
5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。
6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。